

1. マスタープランの目的と役割

1.1 マスタープランの目的

本マスタープランは、九州大学新キャンパスへの統合移転における計画、設計、建設に際し、大学キャンパスとして求められる、未来を見据えた人間性、文化性豊かな研究・教育環境を創造するための土地利用等の空間構成と交通等の骨格形成の方針を提示するために検討されたものである。

マスタープランは、緑地等のオープンスペースと建築物によって将来形成されるべき空間の質 - クオリティ・オブ・ザ・プレイス (Quality Of The Place) - を明確なものとするための目標と方針を九州大学全体で共有するためのものである。

マスタープランに基づき、今後継続的に新キャンパスにおける施設整備が実施されていくこととなる。マスタープランは、秩序ある施設整備と整備後の施設およびオープンスペース等の管理・運営の拠り所となる全学的な指針として位置づけられる。

1.2 マスタープランの役割

(1) ビジョンから空間デザインへの橋渡し

九州大学では、「九州大学の改革の大綱案」に基づき、大学院重点化や学府・研究院制度の実施など、継続的な大学改革を実施している。また、今後は国立大学の運営をめぐる大きな変革も予想される。

マスタープランは、こうした大学の将来ビジョンや文教施策の主旨を理解し、立地条件や環境条件を解読した上で、研究・教育の理念を新天地で実現するための新しい空間構成原理を導き出し、実現可能性の高い空間デザインへと繋げるための指針である。

(2) 空間の質 - クオリティ・オブ・ザ・プレイス - の保障

九州大学の土地は、大学全体及び国民の財産であり、研究・教育活動の基盤である。また、新キャンパスの土地資源は有限である。土地は、研究・教育を中心とした活動のために有効に利用されなければならない。

マスタープランの過程では、研究・教育活動を展開するために必要な土地の有効利用の条件や方策を整理し、一定条件下での優れた環境の創造の可能性を検討してきた。その過程を経て策定されたマスタープランは、新キャンパスにおける研究・教育を中心とする活動を展開していくために有効な土地利用と空間の質 - クオリティ・オブ・ザ・プレイス - を保障するための規範であるとも言える。

(3) 骨格形成と土地利用の方針

マスタープランは、全体計画の目標に基づく計画方針と戦略を提示し、その方針と戦略の下での骨格形成と土地利用の方針や、各施設の設計とランドスケープ・デザイン等の拠り所となる方針を示すものである。個別の施設の細部にわたる位置、形態、デザインを確定するものではなく、個々の施設やオープンスペースなどの設計にあたって、敷地全体の機能的連携、空間構成、景観形成上の考え方を確認するためのものである。即ち、施設等の整備および管理・運営に際しては、常に全体的視野に立った環境形成に対する考え方をマスタープランによって確認しながら、キャンパス全体環境への十分な配慮を行わなければならない。

(4) 将来像と目標像の共有

マスタープランは、新キャンパスの立地条件と環境条件を理解するための情報を提供すると同時に、新キャンパスの将来像を九州大学全体で共有するための空間イメージを提示する。九州大学全体で確認し、共有されたその将来像は、今後新キャンパス内の個々の施設等の計画、設計、建設を進めていく際に一つの方向性を示す目標像でもある。

(5) 首尾一貫した秩序ある段階的整備のための指針

マスタープランは、新キャンパスを構成する各施設やオープンスペース等の長期に渡る段階的な整備を首尾一貫した考え方で計画的に進めるための指針であると同時に、各整備過程での設計の評価や相互調整の拠り所となる基準である。

1.3 ポスト・マスタープランに向けて

(1) マスタープランの運用

マスタープランは、その役割を十分認識した上で運用されなければならない。マスタープランは、新キャンパスにおける土地の整序、個々の施設やオープンスペースの計画、設計、建設や管理・運営の各過程に際して、その指針となる。

(2) アカデミック・プランとの関係

マスタープランは、原則として、全学および各組織単位で作成される新キャンパスにおけるアカデミック・プランや研究・教育の施策等に基づく各施設の計画、設計、管理・運営の指針として位置づける。

但し、マスタープランとアカデミック・プランとの間に矛盾点が生じ、調整の必要が生じた場合は、マスタープランの骨格を維持しつつ、アカデミック・プランや施策等の理念や方針に柔軟に対応することも必要である。

(3) 施設整備の点検・評価

新キャンパスを含む九州大学の施設整備の点検・評価については、九州大学自己点検・評価委員会のもとに施設整備点検・評価特別委員会(仮称)を設置する。

(4) 時代の変化への対応

新キャンパスの整備、管理・運営は長い年月を要する。社会的状況の変化や条件等の変化に対応することも必要となる。マスタープランの骨格の変更にあたっては、九州大学の研究・教育の理念に立ち返り、学内審議を経て行うものとする。

1.4 マスタープランの章構成

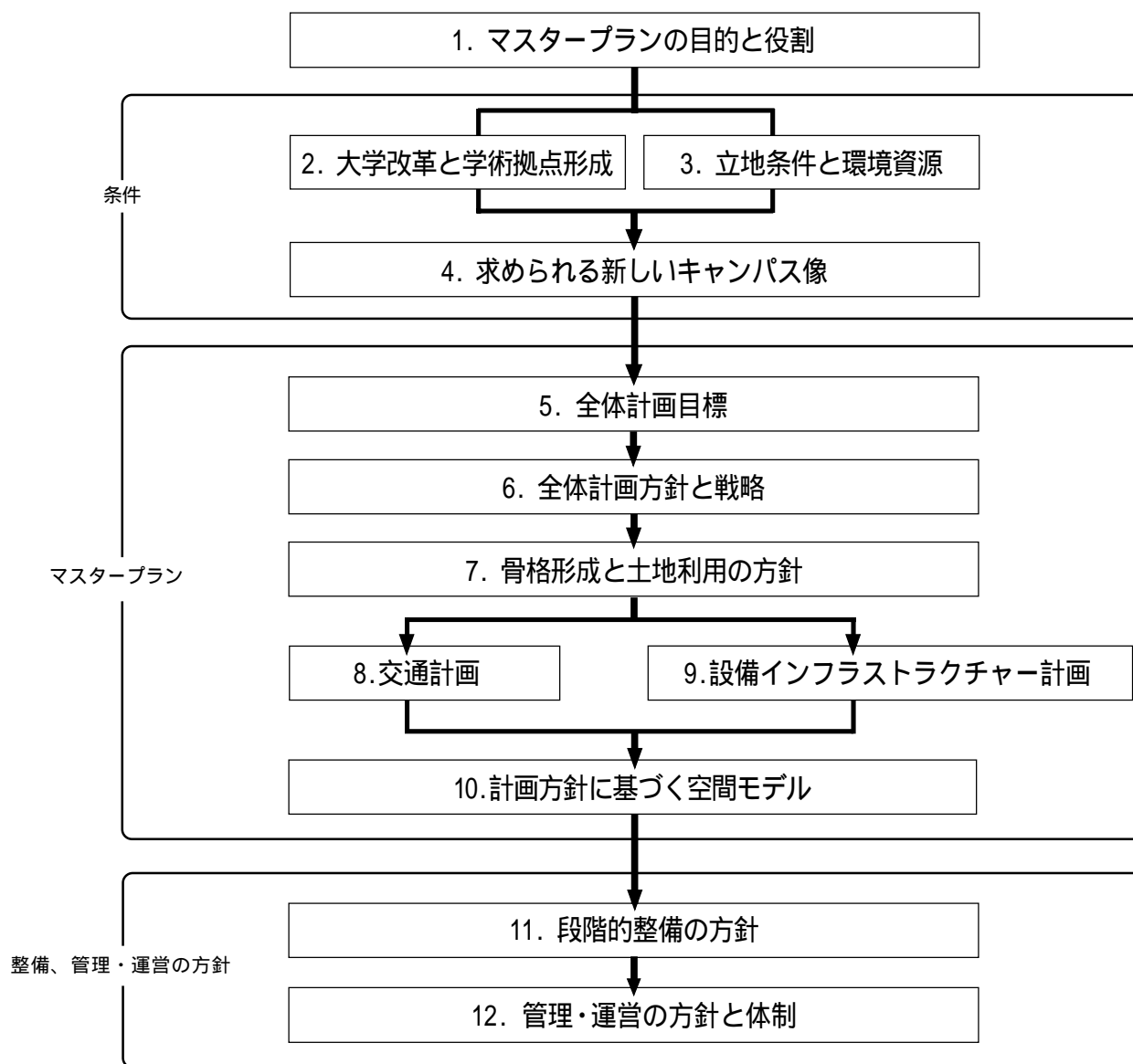


図1-4-1 マスタープラン構成図